シリーズ
探訪・探究

訪れたいまち

第9回
大阪府大阪市

今回は、“文化的な夜型エンターテインメント”で滞在型の観光客の大幅増を目指し、「地域いきいき観光まちづくり2009」にも選ばれた大阪市を訪れてみました。

大阪ナイトカルチャー事業

西日本経済の中心地・大阪。今その大阪で、夜型観光が注目を集めている。

なぜ、夜に観光なのか？　大阪商工会議所の本（もと）奈美氏にお話を伺った。

「大阪には、もともと能楽、文楽、上方歌舞伎など伝統芸能をはじめ、優れた文化資源が集積しています。ここに住み・働く人々はもちろん、国内外からのビジターの方に〝たこやきとお笑いだけではない、本当の大阪〟を知って欲しいのです」

〝本当の大阪〟について語り始めると止まらなくなると言いながら、経緯を教えてくれた。

以前は、演劇などの開演時間は早過ぎて、シニア層など限られた人しか参加できなかった。そこで、〝仕事帰りに文化を楽しむというライフスタイル〟を提案する。〝多くの人が文化を楽しめるまちには賑わいが生まれる〟という考えから大阪ナイトカルチャー事業が始まった。

既存の文化を発掘しつつ新しいものを創る

大阪は、大正末期から昭和初期にかけて〝大大阪（だいおおさか）〟と呼ばれ、人口も東京を上回り、文化・芸術・産業の中心地として栄えていた。この頃に建てられた贅沢な造りの近代建築物が市内に数多く残る。

また、天下の台所と例えられるように、全国から良質で新鮮な食材が集まる土地柄でもある。従来からある財産を活用して文化的な大阪の夜を過ごしていただくことはできないだろうか。

ホールや楽団などを一つひとつ訪問し、開演時間の繰り下げを働きかけた結果、これまでにコンサート、演劇など約1500の公演が行われた。さらに、近代建築内で食事や音楽を楽しむ「大大阪レトロナイト」などの企画を推進してきた。

例えば、「堺筋倶楽部」は、銀行をリノベーションしたレストラン。大正ロマンの香りを色濃く残す名建築に一目惚れしたと語る、代表取締役・梅野知子氏は、「夜のコンサートを始めてから今までと違うカラーのお客様が増えた」と言う。広く文化を発信したいという願いは、「音楽は私達からのプレゼントですから、ミュージックチャージはいただきません」という言葉にも表れていた。

宿泊当日の受付開始時間後に「大阪ナイトカルチャー・ミッドナイトチェックイン利用」と言って予約すると、宿泊料金が最大82%割引になる。ホテルグランヴィア大阪（チラシ）ほか、大阪の主要98ホテルが参加。

大大阪レトロナイトのパンフレット。

山本能楽堂外観。平成22年度「ゆめづくりまちづくり賞」奨励賞を受賞。

山本夫妻は、近年韓国やタイなど海外からの取材も受けるおしどり夫婦。

伝統文化と芸能は「日本一」

伝統芸能のハイライトを四種類まとめて鑑賞できる「初心者のための上方伝統芸能ナイト」を観るため、19時からの開演に合わせて「山本能楽堂」（代表理事・山本章弘氏）に向かう。

国の登録有形文化財とはいえ、市街地にある木造三階建ての外観は、注意していないと見過ごしてしまいそうな清楚な佇まい。

玄関では、山本夫人のにこやかな笑顔がお客様を出迎えてくれる。どこか可愛らしい仕草と言葉づかいに、みな緊張が解けたように中へ入っていく。

一般住宅と変わらない廊下を歩き、引き戸を開くとそこは別世界だった。まさか、この中にこれほど本格的な能舞台があるとは！　外からは想像できない。

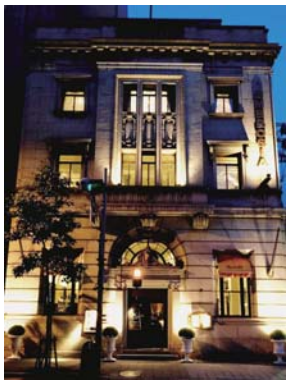
会場には、20～40代を中心に、家族連れ、着物姿の若い女性達、外国人の姿も。緑茶とおこわ飯が用意され、上演中に飲食自由なのも嬉しい。みな突然現れたこの〝異空間〟を楽しんでいる。

和やかな雰囲気の中、落語家の司会で始まった。

「本日は、2階席までいっぱいで素晴らしい。ありがとうございます。子どもさんもいらっしゃいますね。なんで今日は子どもさんがこんなに多いんですかね？」「だって紹介されて、家族で来たんだもん」―客席（笑）―「すみません、勝手にしゃべらないでください。ほんで、僕よりもうけるのやめてください。子どもさんが多くてにぎやかでいいですね」と、ユーモアあふれる進行で、観客と舞台はあっと言う間に一つになった。一方通行のテレビや映画とは違い、生の舞台では、観衆も舞台作りを担う。

演目の解説後に、〝講談〟と〝お座敷遊び〟が上演され、次はお座敷遊びの体験コーナー。この日、小学生の男の子と成人男女の計3人が希望して舞台へ立った。

神聖な舞台では、靴下を足袋に履き替えて舞台に上がる慣わしだとか。足袋を履いた子は歩くこともままならず、なかなか舞台に上がって来ない。それを見ていた出演者らが、「何してんの？　早く上がっていらっしゃい」。「痛いねん」。そんな掛け合いにも笑いが起こる。



堺筋倶楽部の外観と内観。時計は、“シンデレラの夢が覚めない0時前”で止まっている。金庫をワイン貯蔵庫として使用。

「初心者のための上方伝統芸能ナイト」の体験コーナー。自ら演じて楽しむのも大阪の伝統。

「大阪ナイトカルチャー@大阪市立美術館」の様子。

上／日本語・英語・中国語・韓国語の字幕と解説資料が用意されている。ボランティアのメンバー約10人が会場セッティングを行う。
左／食事のおこわ飯は、人気の大阪土産。お茶は地元企業の協賛。

さらに〝狂言〟、〝落語〟とそれぞれの見どころを味わうと、終演は20時50分。挨拶を交わしお客様を見送る夫妻の眼差しは温かく、帰途につく人の足どりも軽かった。

終演後、「敷居が高いような気がしていましたが、楽しかったです。こんなにたくさんお子さんや外国の方がいらっしゃるんですね!?」と、山本氏に尋ねた。

「難しい印象があるかもしれませんが、楽しく親しみ易くしています。例えば、能は室町時代の言葉です。出演者にしたって大阪の言葉で言えば、〝意味なんかわかりまへん。師匠に言われたとおりを口移しでうとうてるだけやから〟といったところですよ。わかろうとしなくても能楽は、謡(うたい)の中にすべてが溶け込んでいて、それを鼓が囃(はや)す。その響きを聴き、広がりを感じていただければ良いんです」と屈託なく笑う。

「後継者が育ちにくい世界です。子ども向けの教室も行っていますが、今日舞台に上がってくれた子が、〝自分もやってみたい〟と思うかもしれない。また、同じ舞台に立つことがなかった出演者同士が競演することで交流が深まり、文化が活性化した。ここは若手育成の場ともなっています」

重要無形文化財総合指定保持者で海外公演も多数こなす能楽師の目は、今だけではなく遠い将来を見つめていた。

「芸術の都」大阪

翌日、かつて豪商淀屋が店を構えた〝淀屋橋〟から川沿いを歩いた。日銀大阪支店、大阪府立中之島図書館、大阪市中央公会堂などを眺め、いくつかの橋を渡る。往時の栄華を偲ばせる風景の中に、散歩する親子、絵を描く人々、休日の昼下がりを思い思いに過ごす市民の姿があった。

日常生活の一部に芸術がある。平成の大阪は時を経てしなやかに変化し、多様な文化を育んでいた。

夜明けとともに活動する商人のまちは、月の光に照らされ、夜も輝く「芸術の都」だった。

●文化が薫る大阪の歴史的建造物●

大阪府立中之島図書館
明治37年(1904)開館。大阪の財閥・住友家の寄附により建設されたネオ・バロック様式の建物は、ギリシャ神殿を思わせる美しい建物。

日本銀行大阪支店
明治36年(1903)開館。ベルギーの国立銀行をモデルに建設されたネオ・ルネッサンス様式の建物は、気品のある青緑色の円屋根が印象的。

大阪市中央公会堂
大正7年(1918)開館。赤レンガとアーチが美しいネオ・ルネッサンス様式の建物を平成のモボ・モガ(モダンボーイ・モダンガール)が描く。

大阪市 MAP

●平成22年度 ゆめづくりまちづくり賞とは

関西らしさを全国に発信できる「誇り」と「こだわり」のある独創的なアイデアをもった取り組みを公募し表彰することで、よりよい都市形成と地域活性化を推進しています。

主催：快適都市実現委員会
(委員長 建築家・安藤忠雄氏、事務局 近畿地方整備局)

●地域いきいき観光まちづくりとは

観光立国の実現に向けて、日本各地で行われている、魅力的な観光地づくりに向けた熱意と創意工夫にあふれた取り組みを紹介した事例集です。

http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/ikiiki.html

●大阪の旅と遊びの観光情報サイト「大阪たのしも」

http://www.osaka.cci.or.jp/tourism/

●レトロ建築めぐり
(財)大阪観光コンベンション協会「ココドコ?」

http://www.coco-doco.jp/

CLOSE UP

MLIT レポート

全国各地で働く国土交通省職員が地元を紹介します。

Reporter
近畿地方整備局
河川部水政課
井上 崇

水の都と言われている「大阪」は、大阪湾に流れ込む淀川や大和川をはじめとした河川に囲まれた都市で、川の恩恵により発展してきました。しかしその一方で、河川の氾濫は、沿川地域を悩ませ続けてきました。

現在の淀川は、約100年前、明治時代に付け替えたもので、当時の淀川の治水安全度を飛躍的に向上させました。この工事で大川(旧淀川)へ分流される箇所には毛馬(けま)の洗堰(あらいぜき)を設け、洪水時に大阪市内へ流入する水量の遮断・調節を可能にするとともに、毛馬の閘門(こうもん)で、大川と淀川の水位差をコントロールし、船が航行できるようにしました。当時の洗堰と閘門は一部保存され、国の重要文化財の指定を受けています。

現在もこの大川など市内中心部には、川でできた「ロ」の字型の回廊があり、「川の駅はちけんや」や「とんぼりリバーウォーク」など市民に憩いの場を提供しています。また、淀川では非常時に水上交通を利用できるよう、緊急用船着場の整備や航路の確保などを進めています。

近畿地方整備局河川部では、大阪・福井・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山及び三重を流れる一級河川10水系の整備をはじめ、ダム、砂防、地すべり、海岸事業を行っています。先人からの蓄積を継承していくとともに、川と社会の関わりという視点で近畿の元気回復を応援し、「次世代につながる川づくり」を目指して事業を展開しています。

大橋房太郎
淀川改良工事(1896-1910)実現の立役者。明治18年の淀川の大洪水を目のあたりにして、淀川改修の必要性を小柄な体ながら葉書大の名刺を出して訴え続けた。

関西初の川の駅「はちけんや」
熊野街道(世界遺産・熊野古道)の起点であった八軒家浜にオープンし、船着場の情報発信拠点となっています。

とんぼりリバーウォーク
大阪の繁華街ミナミを流れる道頓堀川の水辺周辺空間を活かし、さらなる賑わいを演出しています。